

埋文やまがた



2000年6月30日
第17号



新庄市 中川原C遺跡出土の土偶

撮影 Nikon D1
補正 Adobe PhotoShop5.02

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

平成12年度の事業概要

1 発掘調査事業

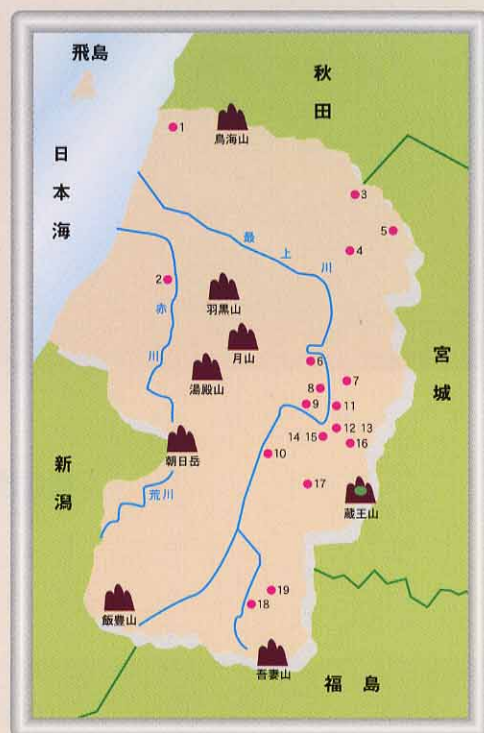
今年度の発掘調査は、山形県の農林水産部・土木部・健康福祉部・企画調整部・教育庁、日本道路公団からの委託を受け実施します。山形県内19件が調査の対象となって、その総面積は106,200平方mになります。また、15件の整理・報告書作成作業も行われます。

平成12年度発掘調査一覧

No.	遺 跡 名	市町村	時代区分	種 別	調査期間
1	小山崎遺跡	遊佐町	縄文	集落跡	5/29～9/1
2	鶴ヶ岡城跡	鶴岡市	平安・中世・近世	城館跡	4/17～10/20
3	中台遺跡群（4・5）遺跡	真室川町	縄文	集落跡	5/8～9/22
4	中川原C・立泉川遺跡	新庄市	縄文	集落跡	6/12～7/28
5	かっぱ遺跡	最上町	縄文	集落跡	5/8～8/8
6	白鳥館跡	村山市	平安・中世	城館・集落	4/17～7/28
7	小田島城跡	東根市	縄文～近世	城館・集落	4/24～11/22
8	四ツ塚遺跡	河北町	奈良～平安	集落跡	10/2～11/10
9	高瀬山遺跡（HO）	寒河江市	縄文～中世	集落跡	4/12～10/18
10	沼向遺跡	朝日町	縄文	集落跡	9/11～10/24
11	蔵増押切遺跡	天童市	古墳～中世	集落・水田	5/8～6/9
12	桜江遺跡	天童市	古墳～奈良	集落跡	7/24～9/14
13	永源寺跡遺跡	天童市	縄文・弥生・奈良・平安	集落跡	4/18～8/9
14	渋江遺跡	山形市	古墳	集落跡	4/17～9/14
15	向河原遺跡	山形市	平安	集落跡	4/17～6/23
16	長表遺跡	山形市	古墳・中世	集落跡	5/8～9/8
17	石田遺跡	山形市	縄文・平安	集落跡	4/18～7/7
18	米沢城跡	米沢市	近世	城館跡	5/17～8/31
19	馳上遺跡	米沢市	奈良・平安	集落跡	5/10～11/21

平成12年度整理・報告書作成一覧

No.	遺 跡 名	市町村	事業内容
①	太夫小屋1・2・3遺跡	川西町	報告書作成
②	山田遺跡	鶴岡市	報告書作成
③	高瀬山遺跡（1期）	寒河江市	遺物整理
④	高瀬山遺跡（SA）	寒河江市	報告書作成
⑤	三条遺跡	寒河江市	報告書作成
⑥	高瀬山遺跡（2期）	寒河江市	報告書刊行
⑦	落衣長者屋敷遺跡	山形市	報告書刊行
⑧	石田遺跡	山形市	遺物整理
⑨	萩原遺跡	山形市	遺物整理
⑩	志戸田縄遺跡	山形市	遺物整理
⑪	馬洗場B遺跡	山形市	遺物整理
⑫	服部・藤治屋敷遺跡	山形市	遺物整理
⑬	板橋2遺跡	天童市	遺物整理
⑭	砂子田遺跡	天童市	遺物整理
⑮	中袋遺跡	天童市	報告書作成



2 研究・普及

埋蔵文化財保護に関する研究と保護思想の普及を目的とした活動を行っています。

(1) 調査説明会

発掘調査の成果を広く県民に公開するためのもので、調査された遺跡について、現地で説明を行い、あわせて出土した遺物も展示します。

開催日時などは、そのつど新聞・市町村広報などでお知らせしていきます。



調査説明会（馬洗場B遺跡）

(2) 発掘調査報告会

平成12年度に行った発掘調査の成果を、写真やスライド上映を交えて報告します。また、出土した遺物の展示もあわせて行います。

今年度の開催予定は、12月です。（昨年度は12月12日（日）山形市ビッグウイングにおいて開催）



発掘調査報告会（平成11年度）

(3) 広報誌・年報の発行

広報誌『埋文やまがた』を年3回刊行し、県内の学校・公民館・図書館等に配布しています。また、個人でも購読を希望される方がいましたら、当センターの研究課までご連絡下さい。

年報は、発掘成果など当センターの1年間の活動の概要をまとめたものです。翌年度初めに刊行しています。

(4) 出土文化財の保護と活用

出土文化財及び調査記録の展示会などへの貸し出しを行っています。



発掘調査報告会（平成11年度）

(5) 報告書の刊行

調査が終了した遺跡の報告書を順次刊行しています。

(6) 見学者の受け入れ

センター内は、展示室の他、作業の様子などを見学することができます。なお、小学校・中学校などで見学を希望される場合は、事前に連絡をお願いします。

（岡部 博）



埋文センター展示室見学

河川跡は遺物の宝庫！

—天童市・板橋2遺跡—



調査区全景：蛇行する河川跡の北側に古墳時代のムラが見つかりました。



発掘調査のようす：河川跡の幅は広いところで15m、深さは1.5mありました。

埋没した河川跡からは土器のほか、普段は腐植して残らない木製品や種実などが真空パックされた状態で発見されることがあり、当時の生活のようすを考える上でたいへん貴重な情報を得ることができます。

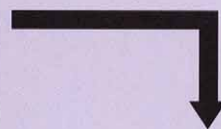
ここでは、天童市にある古墳時代の板橋2遺跡での発掘例を紹介します。
(須賀井新人)



▲川底からたくさんの土器がかさなって見つかっています。



◀農具として使われたクワの出土状況です。



▼近くから見つかったものも合わせると、おおよその形がわかります。



▲古墳時代特有のナスビ形をしたクワです。



土器がよみがえる時

—新庄市・中川原C遺跡—



土器が出土したときは、壊れている
場合がほとんどです。



洗浄・ネーミングが終わると復元作業が
始まります。



接合できる破片を集め、色や焼き加
減・固さなどの似ているものを探し
ます。

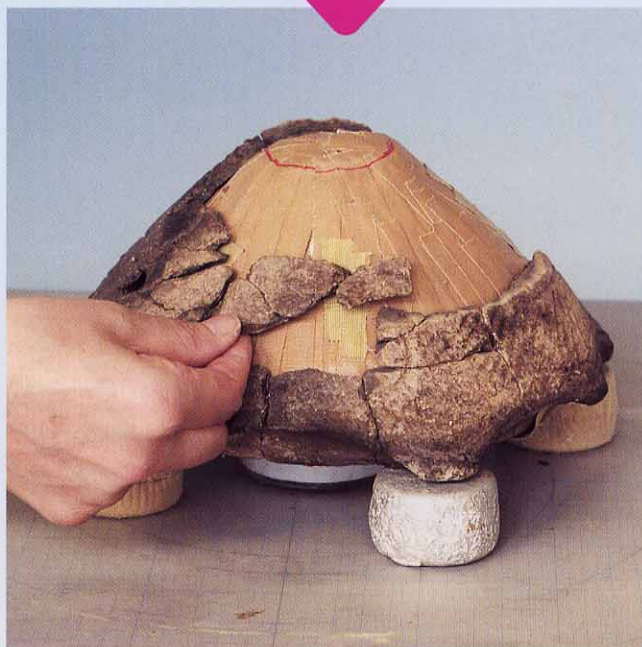


口縁部・胴部・底部に分類し、ジグ
ソーパズルのように組み合わせてい
きます。

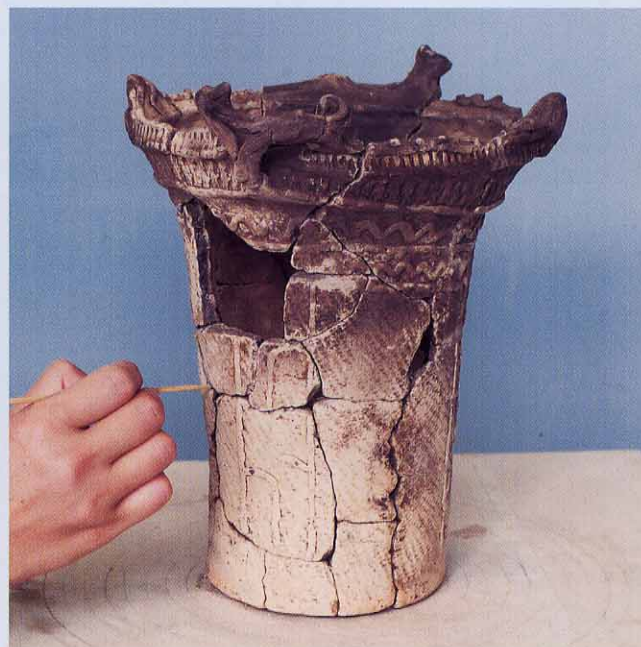


次に、底部から組み立てて接着剤を使って接合していきます。

この時、形が歪まないように注意します。



底部の小さい浅鉢などの土器は逆さにして接合していく場合もあります。



接合部分は樹脂を使って強化し、土器が丈夫になるようにします。



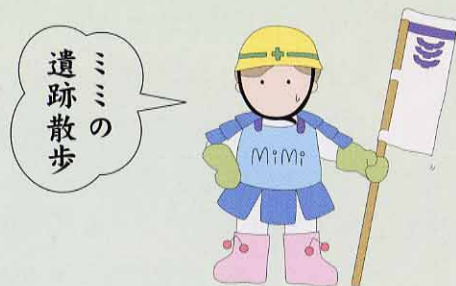
足りない部分に充填材（石こうなど）を入れて文様を補い、形を整えると完成です。

4500年ぶりにもとの姿に戻りました。

（佐竹桂一）



※撮影 Nikon D1



山形市 国指定史跡

山形城跡

山形城跡は、山形市のほぼ中央にあり、二の丸は霞城公園として親しまれています。堀に沿った土塁の上を歩くと、史跡に指定されている二の丸を一周することができます。直角に曲がったり、張り出したりする堀と土塁のラインは、今から約370年前の二の丸の形を残すものと考えられています。

山形城は、1356年、斯波兼頼が築城したといわれています。その後、斯波氏は最上氏を名乗ります。山形城の全盛期を築いた11代義光は、城の整備拡張を行いました。本丸・二の丸・三の丸をもつ、東西約1500m、南北約1900mの大規模な平城となり、城下の町並も、このときにほぼ完成しています。本丸には天守閣はなかったものの、立派な櫓が建っていたと伝えられます。義光没後、鳥居氏が城主となり、大改修をしました。現在の二の丸の堀・土塁・石垣の一部は、この時代の形をとどめていると理解されています。その後、城主が何度も交代し、明治維新を迎えます。日新戦争後、1945年の終戦までは歩兵連隊が置かれていました。この間、敷地の造成を目的として本丸堀が埋め立てられ、桜1000本が植樹されています。終戦から3年後に、公園として開放されました。

平成3年には、発掘調査や史料研究の成果をもとに、二の丸東大手門が復元されました。約280年前の史料をもとに設計された櫓門が、現存する石垣の上に建てられました。それ以降は、本丸堀の発掘調査と、本丸一文字櫓（大手門）の復元が進められています。昨年度の調査では、本丸の堀にかかる大手橋の橋脚の部材が見つかり、橋の構造の一部が解明されています。復元される大手門の石垣は、堀底からの高さが13.5mにおよび、平成18年に完成する予定です。

白い壁の二の丸東大手門をくぐると、最上義光の騎馬像が出迎えます。緑の美しい公園を散歩すると、テ

ニスやソフトボールで汗を流す人、輪になって弁当を広げる人、堀に釣り糸をたらす人、いろんな人に会うことができます。斯波氏は、自分が築いた城が多くの人々の憩いの場になると想像していたでしょうか？

(高桑弘美)

Illustration©Kurosaka Hiromi



復元された二の丸東大手門



本丸堀の調査



本丸大手門の復元

資料提供：山形市教育委員会

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023 (672) 5301 (代表)

編集後記



今年度の担当は、私たち8人の編集委員が担当します。どうぞ、よろしく！